

ロシナンテスの活動は
皆さまからのご寄付で支えられています。

活動を 知る・伝える

私たちが取り組む課題を知り
伝えていただくことも
大きなご支援です

 メールマガジンを読む

 講演映像を見る

 報告書・会報を読む

 写真集を見る

 本を読む

 SNSをチェックする

 イベントに参加する



活動を知る・伝える
その他の支援
の詳細はこちら

<https://www.rocinantes.org/support/>

寄付で支援

月1,000円～

年3,000円～

継続的に支援

①クレジットカード

ウェブサイトよりお手続きください。
[https://www.rocinantes.org/
support/donate/member/](https://www.rocinantes.org/support/donate/member/)



継続的に支援
ウェブサイトへ

②銀行口座自動振替

所定の申込用紙を送付しますので
ロシナンテスまでご連絡ください。

今回のみ支援

①クレジットカード

ウェブサイトよりお手続きください。
[https://www.rocinantes.org/
support/donate/single/](https://www.rocinantes.org/support/donate/single/)



今回のみ支援
ウェブサイトへ

②郵便振替

以下の口座をご利用ください。
郵便振替口座: 00940-2-213477
口座名: 認定NPO法人ロシナンテス
※郵便局(ゆうちょ銀行)の窓口から上記の口座に
払込みの場合、払込み手数料が免除になります。

③銀行振込

以下の口座にお振込みください。
銀行名: 福岡銀行
支店名: 三萩野支店
口座番号: 普通預金 1733240
口座名: 特定非営利活動法人ロシナンテス

他にも様々な形での
ご支援方法がございます

その他の支援

 古本で支援

 物品で支援

 パソコン購入で支援

 携帯を通じて支援

 電気を通じて支援

 ポイントを寄付

 はちみつ購入で支援

 オリジナル
クレジットカードで支援

 寄付型自動販売機を
設置する

 自分で寄付を集める

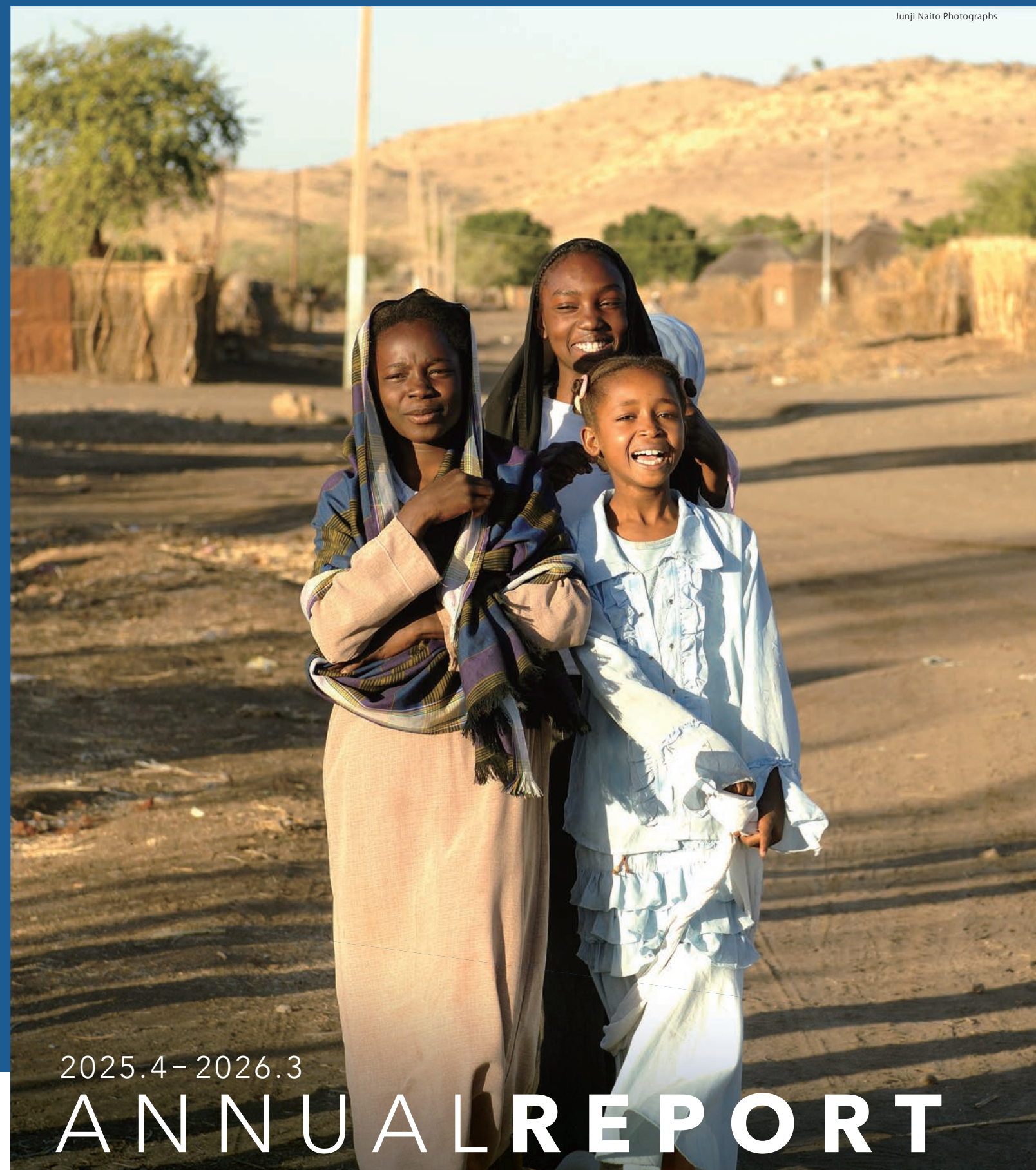
 法人のご寄付

 遺贈・相続財産のご寄付



「医」を届ける。
ROCINANTES
ロシナンテス

Junji Naito Photographs



2025.4-2026.3

ANNUAL REPORT

[2025年度] 認定NPO法人ロシナンテス年次報告書



私たちNPO法人「ロシナンテス」の名前は、小説「ドン・キホーテ」に出てくるドン・キホーテが乗る瘦せ馬のロシナンテに由来しています。「私たち一人一人は瘦せ馬ロシナンテのように無力かもしれないが、ロシナンテが集まり、ロシナンテになれば、きっと何かできるはずだ!」と考え、「ロシナンテス」と名付けました。今後もこれを信念として一歩一歩歩んでまいります。

認定NPO法人ロシナンテス

〒802-0082 福岡県北九州市小倉北区古船場町1-35 北九州市立商工貿易会館7F TEL:093-521-6470 FAX:093-521-6471 ✉ info@rocinantes.org

病院がない。 医者がいない。 途上国には、 厳しい現実がまだまだ存在します。

ロシナンテスは、
そのような地域に暮らす人たちに
医療を届ける活動を続けています。

医療施設のない村々を回って医療を提供し、
国や地域と協力しながら診療所をつくり、
給水所の整備や学校建設、栄養改善など包括的な保健事業を整備することで、
現地の人たちだけで医療を継続できる仕組みづくりをしています。

VISION

〈ビジョン〉

目指す将来像

支援した地域の人たちが、
「医療」を自分たちのものとし、
地域の人たちだけで
医療を継続できる仕組みが
根付いている世界。

MISSION

〈ミッション〉

使命・役割

病院が無いなどの理由で、
必要な医療が受けられない地域に、
医療が届く仕組みを整備することで、
一人でも多くの命を救う。
そして、誰もが健やかに
生きることができる
環境をつくる。

VALUE

〈バリュー〉

活動理念

目の前で困っている人を助ける
家族の絆と地域の和を大切にする
一人はみんなのために、
みんなは一人のために

Junji Naito Photographs

CONTENTS

- 01 ごあいさつ／ビジョン・ミッション
- 03 スーダン事業
- 07 ザンビア事業
- 12 国内活動
- 14 会計報告／団体概要

ごあいさつ

いつもロシナンテスを温かく応援いただき、
心より感謝申し上げます。

皆さまのご支援のおかげで、2025年度も
スーダン、ザンビア、そして日本において
活動を継続することができました。

スーダンでは、内戦が続く厳しい状況の中、
現地の医療関係者や行政機関との連携を
深めてきました。おかげさまで、救急車の
寄贈や、九州大学とバングラデシュのグラミ
ン・コミュニケーションとの協業によるデジ
タルヘルスを活用した母子保健事業を進め
ることができました。困難な環境の中でも、
医療を守り、人々の健康を支えようと懸命
に努力する現地の方々の姿に、私たちも大き
な力をいただいています。一日も早く平和が
訪れ、人々が安心して暮らせる日常を取り
戻すことを心から願っています。

ザンビアでは、母子保健事業や結核対
策事業を着実に進めることができました。
AI診断機能を備えたポータブルX線装置や
小型エコーなど、新しい技術を現地の医療
現場で活用しながら、地域の医療従事者と
ともに、より質の高い医療を届けるための
取り組みを進めています。

世界には今なお多くの困難があります。
しかし、どの地域にも希望を失わず、より
良い未来を築こうと努力する人々がいます。
私たちは、そうした人々と手を携えながら、
「誰もが健やかに生きることができる世界」
を目指して、これからも活動を続けてまいり
ます。

最後になりましたが、日頃よりロシナンテス
の活動を支えてくださる皆さまに、心より
感謝申し上げます。今後とも変わらぬご理解
とご支援を賜りますよう、よろしくお願い
申し上げます。

代表取締役 川原 尚行



ACTIVITIES of ROCINANTES

ロシナンテスの活動
スーダン事業

2023年4月、スーダンの首都ハルツームで、国軍と準軍事組織RSF（Rapid Support Forces※）による武力衝突が発生しました。長期化する内戦により、多くの人々が国内外に避難しており、医療をはじめとする生活インフラにも深刻な被害が及んでいます。

こうした中、ロシナンテスでは、比較的治安が安定している紅海州ポートスーダンへの出張を重ね、支援再開に向けた準備を進めてきました。2025年度は、救急車の寄贈と、国連機関との連携による母子保健事業という2つの新たな取り組みを実施することができました。

続くスーダン内戦—— 急がれる医療への支援

2025年3月、国軍は約2年間RSFの支配下にあった首都ハルツームの大部分を再び掌握しました。しかしRSFは引き続き西部を中心に実効支配を続けており、ダルフルやコルドファンなどでは依然戦闘が続いています。

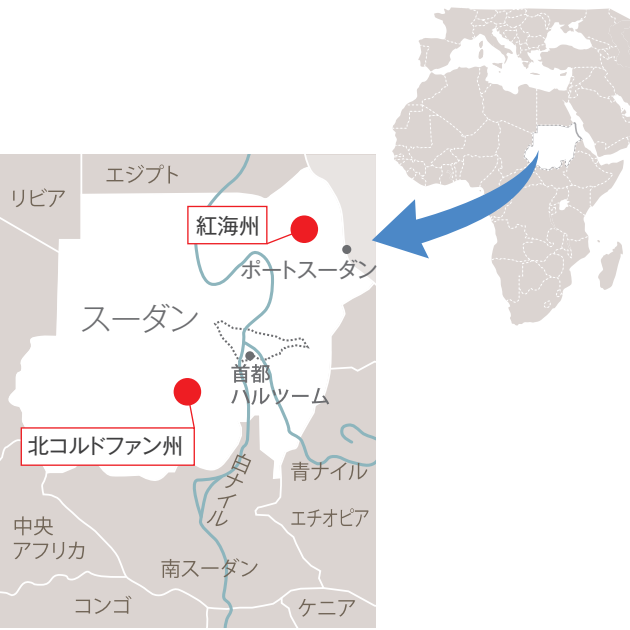
2025年5月には、比較的治安が安定していたポートスーダンにもドローン攻撃が相次ぎ、人道支援の拠点や物流機能にも影響が出ました。北ダルフル州のエル・ファーシルでは病院への攻撃や多数の死傷者も報告されており、民間人の安全が脅かされる深刻な状況が続いています。

国連人道問題調整事務所（OCHA）によると、2026年にスーダンで人道支援を必要とする人は3,370万人にのぼり、世界で最も深刻な人道危機の一つとされています。食料不足・感染症・栄養不良・教育機会の喪失など、複数の危機が同時に人々の生活を直撃しています。

世界保健機関（WHO）によるとスーダン全土の医療施設のうち約37%が機能しておらず、紛争による破壊や医薬品・医療機材の不足が、診療の継続を妨げています。さらに2023年4月15日以降、医療機関への攻撃が217件確認され、医療従事者を含む2,052人が死亡、810人が負傷したと報告されています。



ポートスーダンの様子。2026年5月にドローン攻撃があったものの、その後の治安は落ち着き市場も活気を取り戻しています



※2000年代のダルフル紛争で活動した民兵組織「ジャンジャウィード」を起源とした組織。その後に国家の正式な治安部隊として位置づけられた。



戦闘の被害を受けたオンドルマンの病院

1年を振り返って

スーダン事業部
現地スタッフ
イプティサム



この1年、スーダンで活動できたことは、困難であると同時に非常に意義深いものでした。長期化する内戦により、多くの人々が避難生活を送り、生活環境の悪化や基本的なサービスの利用が難しい状況が続いています。そうした中でも、地域の人々が互いに支え合い、前を向いて生きるたくましさに、深く心を動かされました。

ご支援くださる皆さまに心より感謝申し上げます。皆さまのご寄付が、危機の中にある人々の生活を支える大きな力となっています。

01 救急車寄贈

2023年4月15日に軍事衝突が勃発して以降、スーダン国内の一部の地域では重要なインフラが崩壊し、医療へのアクセスが著しく制限されています。病院が襲撃され救急車が奪われる被害も発生しています。現地政府の話によると、国内に約1,000台あった救急車が、200台ほどにまで減少しています。救急車がない地域では、ロバを使用して患者を搬送する場合もあるといえます。

日本で役目を終えた救急車をスーダンへ

こうした状況を受け、ロシナンテスでは、神奈川県横浜市から2台、福岡県北九州市から2台、計4台の救急車をスーダンへ寄贈しました。スーダンでは本来、中古車両の輸入は禁止されていますが、今回は特例として認められました。北九州市から寄贈された救急車には、理事長川原の講演を聞いた中学生たちの協力で制作されたオリジナルステッカーと横断幕が添えられ、スーダンへ輸送されました。

輸出書類の作成や通関手続き、船積みの手配、スーダン側での受け入れ調整など、さまざまな準備を経て、およそ1年をかけて4台の救急車は無事にポートスーダンへ到着しました。

病院や支援組織の活動で活用

4台の救急車のうち1台は、スーダン国内で母子保健分野の活動をするスーダン家族計画協会（SFPA）へ寄贈が決定し、巡回診療車として活用されます。その他の3台については、ハルツームにあるマイセトーマ病院、ポートスーダンとオンドルマンにある母子病院に寄贈する予定です。全ての配備が完了しましたら、改めてご報告いたします。

北九州市の救急車は、北九州青年会議所の皆さまのご尽力で寄贈が実現しました！



救急車寄贈

期間／2025年4月～2026年3月（継続中）
寄贈先／スーダン家族計画協会（SFPA）
およびスーダン国内の医療施設を予定
（マイセトーマ病院、オンドルマン母子病院、
ポートスーダン母子病院）
寄贈元／福岡県北九州市、神奈川県横浜市



ポートスーダンに到着した救急車

学びと暮らしを支える明かり

ソーラーランタンを寄贈した地域の様子が届きました！



／ 現地からの声 ／

ロカップ村 ウムさん

ランタンが届いた夜、家の中が明るくなって、喜びと安心感で胸がいっぱいでした。こんな日が来るとは夢にも思いませんでした。村のみんなにも持ってもらえたら、どれほど良いかと思います。

オムサマーマ村 ハッサンさん（学校長）

ランタンが届いてから、生徒たちの学習への取り組みが明らかに変わりました。夜間も自主的に勉強するようになり、学業成績の向上を実感しています。この事業は未来の人づくりにおいて本当に重要な意味を持っています。



医師と遠隔でやり取りをする様子

02 母子保健デジタルヘルス実証事業

ロシナンテスは、国連人口基金（UNFPA）と協力し、スーダンでデジタルヘルスの導入に取り組んでいます。

スーダンでは、長期化する内戦の影響により、約120万人の妊産婦が栄養不良の状態であると報告されています。こうした状況を受け、UNFPAと連携し、比較的治安が安定している紅海州で、遠隔医療システム「ポータブル・ヘルス・クリニック」を活用した実証事業を実施しました。

医師が不在でも健診ができる遠隔医療システム

ポータブル・ヘルス・クリニックは、検査機器、データ管理アプリ、通信システムを組み合わせた遠隔医療システムです。九州大学とバングラデシュのグラミン・コミュニケーションが共同開発しました。検査データは自動で判定され、異常がある場合は医療従事者に通知されます。遠隔で医師につなぐことができるため、医師がいない地域でも助産師や看護師などが健診に迅速に対応できます。

内戦下のスーダンでは、多くの妊産婦が母子保健サービスを受けにくい状況にあります。こうしたデジタルヘルスの導入は、医療にアクセスしづらい妊産婦に必要なケアを届けるうえで、重要な手段となりえます。

母子保健デジタルヘルス実証事業

期間／2026年1月～3月

地域／紅海州の国内避難民キャンプおよび医療センター

対象／医師・看護師・助産師17人および巡回検診受診者416人

パートナー機関／国連人口基金（UNFPA）、九州大学、グラミン・コミュニケーション、スーダン家族計画協会（SFPA）



研修のためにスーダンへ渡航した理事長川原

紛争下のスーダンで、妊婦さんたちに医療を届ける

本事業では、妊婦さんへ質の高い保健医療サービスを継続的に提供することを目指しています。具体的には、

- 助産師が母子保健の知識や技術、デジタルヘルスの活用方法を学ぶこと
 - 遠隔医療システム「ポータブル・ヘルス・クリニック」を使い、家庭訪問で妊婦に専門的なケアを届けること
- に取り組みました。

事業の実施にあたっては、ロシナンテスが資金配分や物流サポート、研修運営を担当し、九州大学とグラミン・コミュニケーションがポータブル・ヘルス・クリニックの導入や研修を担当しました。また、スーダン家族計画協会が現地での運営やモニタリングなどを担当しました。

2026年1月には、IT専門家と看護師を招き、エコー研修とポータブル・ヘルス・クリニック研修が実施されました。その後、紅海州でスーダン家族計画協会が管理・運営する診療所を拠点に、都市部の診療所に加えて村落部でも巡回診療を行いました。

国内避難民キャンプでの巡回診療

2026年2月には、紅海州の国内避難民キャンプでもポータブル・ヘルス・クリニックを活用した巡回診療を開始しました。この地域の避難民キャンプでは、各地から避難してきた人々の流入により、医療体制がひっ迫しています。

現地からは「他の病気も診てほしい」という声も寄せられました。始まったばかりの取り組みではありますが、まずは少しずつ妊婦さんたちに安心を届けることができたのではないかと思います。

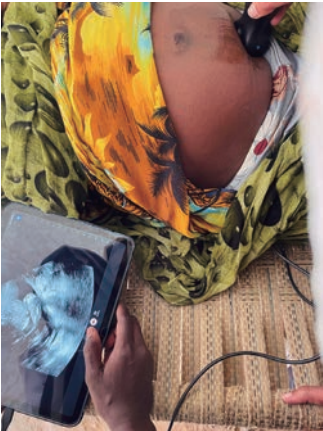
一方で、難民キャンプなどでは、インターネット環境の整備といった課題も明らかになりました。本事業は2026年3月までパイロット事業として実施し、その結果を踏まえて、今後の事業拡大も視野に入れています。目の前の命を守ることと、持続可能な医療の仕組みづくりの両立を目指し、引き続き取り組んでいきます。



ポータブル・ヘルス・クリニックを活用して血圧を測る



順番を待つ妊婦さんたち



エコーで妊婦さんの健診を行う様子



研修にはバングラデシュから専門家を招きました



エコーの使い方を学ぶスーダン人医療スタッフ

エコー研修を受けた 医師の皆さんの声

とても素晴らしい経験でした。エコー機器の使い方を、基礎から学ぶことができました。操作がシンプルなため、医療へのアクセスが難しい地域でも、助産師や看護師が活用できると思います。この国が非常に困難な状況にある今、この取り組みは私たちにとって極めて重要です。技術への理解を深めるとともに、日本から共有された貴重な経験からも多くを学びました。実際に機器を見て学ぶことで、現場での活用方法を具体的に理解できました。大変有意義で、実践につながる学びでした。



巡回診療チームのリーダーをしているリアです。デジタルエコー機器がどのように機能するのかを学べたことは、とても有意義な経験でした。遠隔地では、十分な医療サービスを受けられない地域もあります。そのような場所で、この技術は巡回診療を行う際に大きな力になると思います。

今後、巡回診療の対象地域がさらに広がり、この技術をより多くの場所で活用できることを願っています。ありがとうございます。

ACTIVITIES of ROCINANTES

ロシナンテスの活動
ザンビア事業

母子のいのちをまもる

ザンビアの村落部では、診療所へ行くのに歩いて何時間もかかる村も多く、出産には様々な危険が伴います。事業を通して、安心して出産できる環境を整えます。



Junji Naito Photographs

村落部における妊娠・出産を取り巻く課題

ロシナンテスは、ザンビア中央州チサンバ郡で、母子保健事業に取り組んでいます。これまで、出産待機施設「マザーシェルター」の建設などを通じて、妊婦さんが医療施設で安全に出産できる環境づくりを進めてきました。

2025年に行った調査の結果、マザーシェルターの建設後、自宅出産の件数が大きく減少していることがわかり、これまでの活動による改善が確認できました。しかし一方で、「妊婦健診の開始が妊娠中期以降と遅いこと」「妊婦健診の回数が3～4回にとどまっていること」「エコー健診の受診率が低いこと」などの課題も明らかになりました。

妊娠3か月までに健診を開始し、妊娠期間を通じて定期的に健診を受け、必要な時期にエコー健診を受けることは、お母さんと赤ちゃんの安全を守るうえで重要です。一方で、施設までの距離が遠いといった理由に加え、妊娠初期に周囲に知られることへの不安、妊婦さん本人や家族の健診に対する理解不足など、複数の要因から、必要な健診につながりにくい状況があります。こうした課題を解決するため、2025年度は2つの活動を強化しました。

1年を振り返って

ザンビア事業部 土井直江

この1年、妊産婦と赤ちゃんに確かな変化を届ける活動とは何かを、チームや関係者とともに考え続けてきました。私たちの活動が終了した後も、現場で医療が続いていく仕組みをつくるには、粘り強い準備が欠かせません。計画通りに進まないことも多くありますが、今蒔いている種が、来年、再来年にどのような花を咲かせるのかを楽しみに、取り組んでいます。現地スタッフ、専門家の先生方、日本から活動を支えて下さる皆さまに心より感謝申し上げます。

2021年に建設されたマザーシェルター

Junji Naito Photographs



01 ヘルスボランティア活動改善事業

地域の妊産婦と医療施設をつなぐヘルスボランティア「SMAG(Safe Motherhood Action Group)」の活動の活性化を目指す事業を行いました。

医療施設のサービスを拡充しても、妊婦が必要な時期に健診を受ける行動につながらなければ、本当の意味で医療を届けることはできません。地域の中で妊産婦に寄り添い、健診の大切さを伝え、必要に応じて医療施設へつなぐSMAGの存在は、母子保健の改善に欠かせないものです。

2025年度は、チコンコメニとムワブラ地域で活動する28名のSMAGメンバーを招き、2週間の集中研修を実施しました。研修では、妊娠・出産時に受診を

促すべき危険な兆候や、自宅出産となった場合の異常出血への緊急対応など、母子保健に関する基礎知識を確認しました。また、日頃の活動で直面している課題についてグループディスカッションを行い、解決に向けた方法を話し合いました。SMAG、医療施設スタッフ、郡保健局が、地域の母子保健の最前線に立つという共通の使命を確認し、連携を深めることができました。

ヘルスボランティア活動改善事業

期間／2025年4月～2026年3月
場所／中央州 チサンバ郡 ムワブラ地域、チコンコメニ地域
対象／上記地域のSMAG28名

研修を修了したSMAGの皆さん



SMAG研修の様子

02 エコー事業

エコー健診は、胎児の発育や胎位、胎盤の位置、羊水量などを確認し、リスクの早期発見につなげる重要な取り組みです。ロシナンテスは2022年から、妊産婦さんが近くの医療施設で適切な時期にエコー健診を受けられる体制づくりを進めてきました。

2025年度は、エコー健診を担うスタッフの拡充と技術のフォローアップのため、計7回の研修を実施しました。その結果、エコー診断を担うスタッフは8施設で計41名にまで拡大しました。これにより、どの施設でも健診日にエコー検査を受けられる体制が整いつつあります。研修では、日本から派遣された専門家の指導のもと、現地スタッフが機器の扱い方や画像の見方を一つひとつ確認しながら、真剣に技術の習得に取り組みました。



Junji Naito Photographs

エコー健診の技術は、一朝一夕で身につくものではありません。研修を重ね、現場で実践し、振り返るという地道な歩みを続けることで、少しずつ確かな力となっていきます。こうした積み重ねが、より多くのお母さんと赤ちゃんの安全を守る土台となっています。



おなかの赤ちゃんをエコーで見ている妊婦さん

エコー事業

期間／2025年4月～2026年3月
場所／中央州チサンバ郡の8つの医療施設（ムワブラ診療所・チコンコメニ診療所・チサンバ診療所・カナカントバ診療所・マロンベ診療所・リテタ診療所・モンボシ診療所・チベンビ診療所）
対象／各医療施設の助産師・看護師・準医師などの医療従事者

現地からの声



ムワブラ診療所の助産師
チムニアさん

以前は、赤ちゃんの成長を確認するための計測に難しさを感じていました。今はエコー画像が鮮明になったことで、自分の技術が少しずつ向上している実感があります。お母さんが不安や症状を訴えたときにも、画像を見ながら説明できるようになり、妊婦健診に関わる医療従事者として自信が持てるようになりました。

結核の早期発見を目指して

ザンビアでは、結核は今なお深刻な感染症です。しかし村落部には検査設備がないために気づかないまま症状が悪化することもあり地域への感染拡大にもつながっています。

Junji Naito Photographs

ポータブルX線装置を導入 結核を早期発見、治療につなげる

ザンビアでは、年間5.9万人もの人々が結核に感染しており、結核対策は国の重要政策に位置付けられています。結核の感染拡大を防ぎ、治療を成功させるには早期発見が重要です。結核の診断には痰を用いた喀痰（かくたん）検査や胸部X線検査が必要ですが、村落部を中心にX線装置が不足しており、これが診断の遅れにつながっています。

そこで、ロシナンテスは、2023年より富士フィルム株式会社のポータブルX線装置を活用した巡回検診に取り組んできました。X線装置がない村落部の診療所で撮影を行うことができるようになり、これまで検査を受けられなかった人々にも診断の機会を提供しています。従来の検査では見逃されていた結核患者を多く発見できるようになったことが、これまでの活動によるデータからも明らかになっています。



ポータブルX線装置で撮影する様子

03 巡回検診事業

制度の壁に対処すべく、ガイドラインを策定

ポータブルX線装置は、専用のレントゲン室を必要とせず、地域に出向いて検査できることが大きな利点です。しかし一方で、この装置に対応したガイドラインがなく、従来型のレントゲン室の基準が適用されるなど、運用上の課題がありました。

そこでロシナンテスは、ザンビア保健省に独自のガイドライン策定を提案しました。2025年4月には関係機関を集めた策定会議が開かれ、ドラフトが完成。提案から7か月を経て、2025年7月22日に正式公布に至りました。ガイドラインでは、専用の検査室がなくても、屋外・屋内を問わず安全が確保されれば使用できることが示されています。これにより、より多くの地域で結核の巡回検診を展開できる環境が整いました。

巡回検診事業

期間／2025年4月～2026年3月
場所／中央州チサンバ郡のリテタ郡病院・チサンバ診療所、同州チボンボ郡のムワチソボラ総合病院・ムワンジュニ診療所・聖トーマス病院・ムングレ病院
対象／対象医療施設の職員約400人、同地域の住民約26万6千人
協力企業／富士フィルム株式会社



策定会議で関係者を前に熟弁する川原



ガイドラインの公布式

巡回検診先として新たに2施設を追加

ガイドラインの公布により、ポータブルX線装置による検診を円滑に運用できるようになりました。事業開始から3年を経て、ロシナンテスの直接的なサポートがなくても、現地の医療スタッフが主体となって運営できる体制が整いました。

2025年12月にはチボンボ郡の聖トーマス病院とムングレ病院を新たな巡回先に登録しました。両施設にはこれまでX線装置がなく、患者さんはバスで2～3時間かけて都市部へ移動する必要がありました。

検査室については、聖トーマス病院では空き部屋を改修して使用しています。ムングレ病院では空き部屋がなかったため、本事業で初めて屋外に TENT を設営して実施しています。初回の検診日から複数のケースで結核が確認され、患者さんを治療につなぐことができました。



聖トーマス病院で検査を受ける子ども



ムングレ病院のテントでの撮影準備

重症化を防ぐため骨折への対応も強化

ポータブルX線装置は、けがなどの外傷診断にも活用されています。一方で、地域の医療スタッフと話し合うなかで、骨折への対応が十分にできていないことが課題として見えてきました。村落部の診療所では骨折の判断が難しく、移動手段の不足から適切な処置が遅れ、骨の変形など重症化につながる恐れがあります。

そこで2025年12月、チボンボ郡ムワチソボラ病院で3日間の研修を実施しました。医療スタッフに加え、村長や牧師など地域のリーダーを含む26名が参加し、骨折の基礎知識やX線画像の見方、応急処置、病院搬送の流れを学びました。さらに、SNSグループを活用して診療所と病院が情報共有できる仕組みも整えました。研修後には、診療所で応急処置を行い上位の病院へつなぐ動きも生まれ、地域が協力して早期に対応できる仕組みが整いました。



ポータブルX線装置を使い、骨折か打撲かを実践的に学びます

骨折患者の多くが、子どもや20歳未満の若い世代です

骨折対応研修を受けた 診療所の看護師 マリーさん

「現地からの声」

これまで、骨折は自分の業務の対応範囲外だと思っていました。この研修のおかげで適切に対応できる自信ができました。今回の研修を通して、何を見るべきなのか、どのように判断・診療するべきなのかを学びました。知識は力なので、これから地域の人たちにも伝えていきたいです。

04 結核ボランティア活動改善事業

ザンビアにおいて、「結核ボランティア」は地域に欠かせない存在です。医療従事者とは別に病院や診療所に配置されています。

ロシナンテスは、2025年6月から7月と、2026年2月に結核ボランティアを対象とした研修を実施しました。結核や治療法の正しい知識と伝え方を学び、啓発活動の実践力を高めることが目的です。

研修では、濃厚接触者追跡の家庭訪問の対応をロールプレイ形式で学びました。地域には、「HIV患者が咳をすれば全て結核」「祈祷師に頼らなければ治らない」といった迷信も残っています。こうした文化を一時的に否定せず、共存しながら正しい医療情報を伝えることが重要です。地域に密着するボランティアは、医療施設と住民をつなぐ懸け橋です。ロシナンテスは、これからもボランティアと共に、地域医療の向上に努めていきます。



ロールプレイング研修（地域での啓発活動で痰を採取する様子）

結核ボランティア活動改善事業

期間／2025年4月～2026年3月
場所／中央州チサンバ郡、チボンボ郡
対象／同地域の結核ボランティア37名

結核ボランティアのおもな仕事

- 病院や診療所、地域での結核スクリーニングの手伝い
- 喀痰採取と検査室への提出
- 患者情報の台帳記入
- 医療施設や地域での結核啓発活動
- 患者の治療フォローアップ
- 濃厚接触者の追跡と必要時の喀痰採取
- 患者のX線検査へのエスコート



結核ボランティアの皆さん

05 結核診療所建設事業

2025年9月に、ロシナンテスが結核の巡回検診を行っているチボンボ郡ムワチソボラ病院に、結核専用の診療所を建設しました。

この病院には結核専用の診療所がなく、結核疑いの患者さんと他の患者さんが同じ待合室を使用していました。院内感染リスクが高まるだけでなく、感染を周囲に知られてしまうことで、差別や偏見を受ける恐れも懸念されていました。

そこでロシナンテスは、結核専用の診療所建設を支援することを決定し、郡保健局と連携して結核診療に特化した医療従事者を2名以上配置する準備も進めました。

9月18日に結核診療所の開所式が行われました。当日は地域住民の皆さんも参加し、診療所の役割を深く理解できるよう、演劇グループによる劇も催されました。今後、ムワチソボラ地域の結核対策は、ザンビアでの結核対策のモデルケースとなり、さらに広がっていくと期待しています。



完成した結核診療所

／ 現地からの声 ／

ムワチソボラ病院
結核診療所の準医師
ラファンゼルさん



結核専用の診療所ができたことで、患者さんのプライバシーが守られ、清潔な環境で診察を行えるようになりました。以前よりも来院する患者さんが増えています。専用スペースができたことで、検査データや書類の管理もしやすくなりました。

ACTIVITIES of ROCINANTES

ロシナンテスの活動

国内での活動

第9回アフリカ開発会議（TICAD9） 関連イベントに登壇



九州大学がスーダンでポータブル・ヘルス・クリニックを進めていくことを宣言

2025年8月20日から22日にかけて、神奈川県横浜市で第9回アフリカ開発会議（TICAD9）が開催されました。ロシナンテスは関連イベントとして、ポータブル・ヘルス・クリニックをテーマにしたシンポジウムと、富士フィルム株式会社主催の結核カンファレンスに登壇しました。

ポータブル・ヘルス・クリニックは、医療アクセスが限られた地域にも医療を届けるための携帯型診療システムです。シンポジウムでは、理事長川原がザンビアで導入を進めている小型エコーの事例や、大学・研究機関と現場をつなぐロシナンテスの役割を紹介しました。結核カンファレンスでは、ポータブルX線装置を活用したザンビアでの巡回検診や、アフリカで初めて国家運用ガイドラインを策定した経緯を発表しました。

様々な事例から学びを得るとともに、現地の課題に対して、新しい技術や組織間の連携をどのように活用できるかを議論する機会となりました。



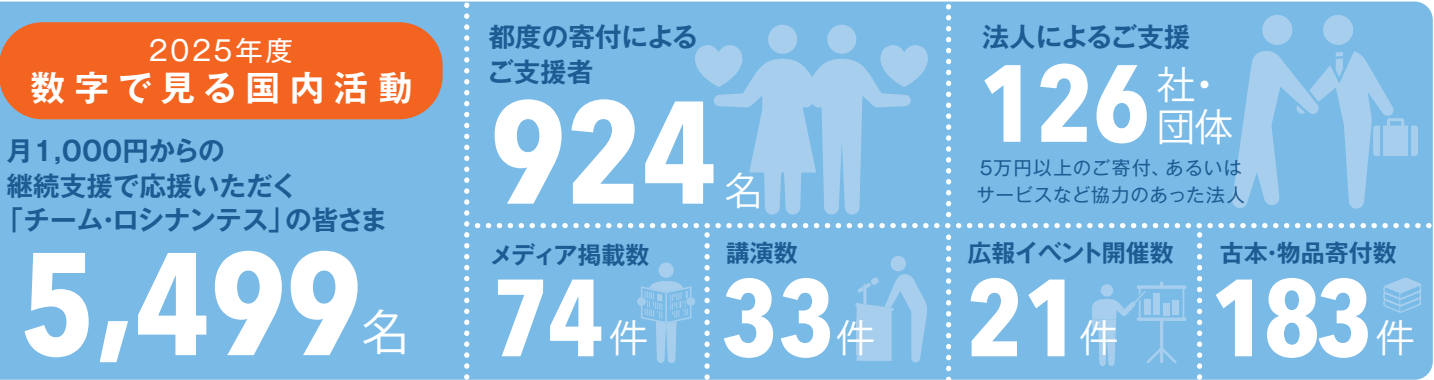
TICAD結核カンファレンスに登壇する理事長川原

SNS投稿で社会貢献できるキャンペーンを開催

2025年4月4日から5月16日にかけて、SNSを通じてスーダン支援につながる「#ノーサイドアクション」キャンペーンを実施しました。手と手を合わせた写真を撮影し、Instagramでハッシュタグを付けて投稿していただくことで、1投稿につき50円がスーダンへの支援につながる取り組みです。

スーダンで内戦が始まってから2年となるタイミングで、争いや分断を前に、誰もが「平和」への思いを形にできるアクションとして企画しました。キャンペーンへの参加投稿に加え、紹介投稿やストーリーズも含めると、投稿件数は229件にのびりました。

ひとりではできることは小さくても、思いが集まれば大きな力になる。そんなことを感じていただける企画となりました。本キャンペーンは、5つの企業の皆さまにご協賛いただき実現することができました。協賛企業の皆さま、そして参加者の皆さまに心より感謝し、今後も平和への思いを形にする取り組みを検討していきます。



ご支援いただいた法人の皆さま

※五十音順・敬称略

【支援企業】

旭建材株式会社
有限会社甘利造園建設
株式会社ウエスト
医療法人うかじ小児科医院
笑顔をつくる1000の会
エクスリンク法律事務所
エムスタイルジャパン株式会社
社会保険労務士法人大竹事務所
有限会社お菓子のリーフ
花王株式会社 花王ハートポケット倶楽部
神尾公認会計士事務所
一般社団法人 Kitakyushu Dream Summit
西東みはる税理士事務所
株式会社産業保健コンサルティングアルク
医療法人山崎会サンピエール病院
白石共立病院 社会貢献室
新熊本産業株式会社
株式会社鈴木工務所
一般社団法人仙台市医師会
ディー・アンド・エイチ株式会社
トップ保険サービス株式会社
医療法人社団寿会永山医院
医療法人社団研和会のむらひふ科耳鼻咽喉科甲状腺クリニック
浜松町眼科
株式会社ハル犬猫病院
宏洲整形外科医院
藤本興業株式会社
株式会社ブランドリーネ
医療法人平和の森
株式会社北海道通信社
公益財団法人毎日新聞西部社会事業団
一般財団法人松本記念財団

一般社団法人未来構想会議
YASKAWA未来クラブ
医療法人ライヴズ
臨済宗妙心寺派
株式会社ワーキングハセガワ
有限会社ワークス
※10万円以上のご支援をいただいている
企業、団体の皆さまを掲載しております。

【企業版ふるさと納税】

長瀬産業株式会社

【キャンペーン協賛】

TOTO株式会社

【サービス協力等】

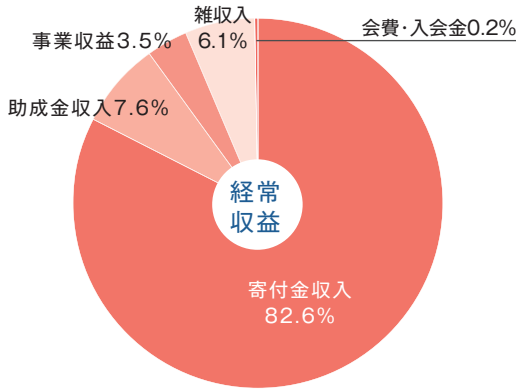
株式会社エポスカード
OSUSO
特定非営利活動法人寄付型自動販売機普及協会
gooddo株式会社
J.S.Foundation
株式会社STYZ
株式会社セールスフォース・ジャパン
株式会社セレス
ソフトバンク株式会社
つなぐ書店
TMコミュニケーションサービス株式会社(お宝エイド)
ハチドリ電力
株式会社PR TIMES
ピープルポート株式会社
ボイナマラーナ
READYFOR株式会社

会計報告

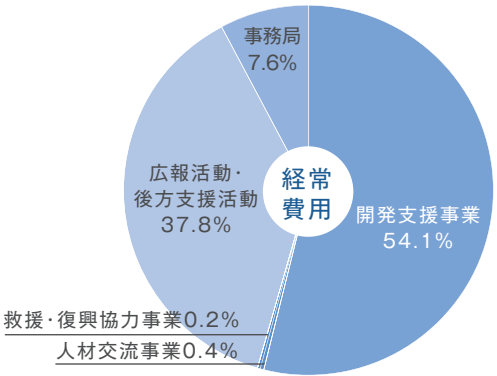
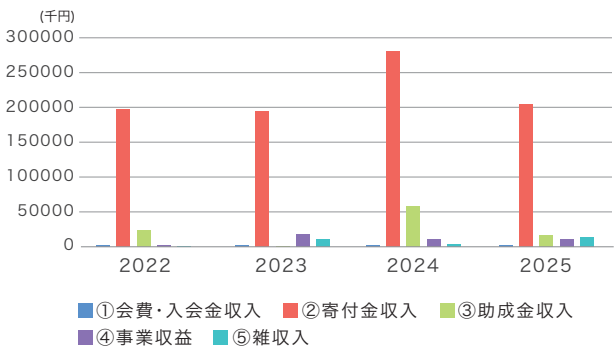
活動計算書

(単位:円)

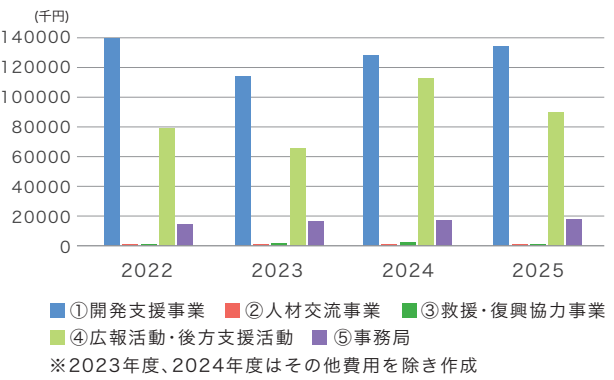
経常収益	①会費・入会金収入	605,000
	②寄付金収入	204,307,297
	③助成金収入	18,754,610
	④事業収益	8,652,551
	⑤雑収入	14,967,202
	経常収益計(A)	247,286,660
経常費用	①生活改善事業(開発支援事業)	134,090,149
	②交流推進事業(人材交流事業)	997,993
	③救援・復興協力事業	410,465
	③広報活動・後方支援活動	93,643,048
	④事務局	18,849,951
	経常費用計(B)	247,991,606
経常外費用(C)		3,739
法人税(D)		81,000
当期正味財産増減額(A-B-C-D)		-789,685
前期繰越正味財産額		319,266,741
次期繰越正味財産額		318,477,056



収益推移



費用推移



ご支援いただいた法人の声

人と地球にやさしい住まいづくりから、未来を支える

ディー・アンド・エイチ株式会社 代表取締役社長 坂口 剛彦 様

弊社は、福岡を拠点に30年以上にわたり
住まいづくりを続けてきた住宅会社です。
「人と地球環境に優しい住宅の供給を通じ、
関わるすべての人たちの幸せを実現する」
というミッションのもと活動しています。
ロシナンテス様への支援を決めたきっ
かけは、活動内容や支援の成果が明確で、
その取り組みに深く共感したためです。

また、北九州市を拠点に活動されている
ことにも親近感を抱いており、同じ福岡の
企業としてその活動を応援し、より良い未来
づくりに貢献したいと考えています。
住まいづくりを通じて人を想う企業と
して、これからも社会に貢献できる活動を
続けてまいります。



組織概要

名 称	特定非営利活動法人ロシナンテス
略 称	認定NPO法人ロシナンテス
設 立	2005年10月(NPO法人設立 2006年5月)
所 在 地	〒802-0082 福岡県北九州市小倉北区古船場町1番35号 北九州市立商工貿易会館7階
スタッフ数	日本 7人、スーダン 4人、ザンビア 13人

役員一覧

理 事 長	川 原 尚 行	理 事	高 山 義 浩
		理 事	海 原 六 郎
		理 事	星 野 賢 一 郎
		理 事	川 原 健 太 朗
		監 事	神 尾 康 生